

惟喬親王伝説御所＞遺跡

所在 群馬県 太田市西長岡町にあり

沿革 惟喬親王は文徳天皇の皇子にして、御位争のため関東に移られ、御所を長岡に構え長岡の宮と称し、干今其山を御所山と云う。其山麓に鑛泉あり「長生館」として賑ったたり。其近傍へ梅桜樹を植栽せるを以て満開の候には頗る美観あり。又山脈一帯の地春は躑躅花綻びて赤を布き、秋風夕に戦の時は、紅楓葉て翠微片金散ず、前には加茂川の滝あり炎熱の候と 慈に浴すれば、清気爽快を覚え、其他由緒ある奮跡所々に散在し頗る幽邃閑雅の一仙郷なり。

御所山と云所宮を蔡ける所也、一段下に平地あり、道修山と云へり。宮の御乳人発心して香華燈明等、不怠一心不乱に彼御菩提を弔奉りけるゆえ其所を道修山と云う也。其外宮御在世之事末世濁世之今に到るまで粗伝、人にあり御所屋敷あり。之前に流水あり壺丁有金之内蛙と云虫無之 上下には毎夏群集る是は御所 はせ絵ふと云えるなり。(強戸中学校蔵 明治四十三年編集村誌所載)

惟喬親王

名 号＝小野宮と称す、又水瀬宮、或いは木原親王と称す。:

系 統＝文徳天皇(55代)の皇子、母は紀静子、名虎の女。

事 蹟＝文徳天皇深く惟喬を愛す。時に清和天皇太子として幼沖なり。

十四年上野大守に移る(29才)是歳秋病により僧となる。

十六年封六百戸を増す。

惟喬固辞すれども優詔許されず。

*神々の住む西長岡郷

白狐三尾稻荷社、植木地蔵尊、菅原神社、正一位稻荷社、浅間神社、若宮八幡宮、京八坂神社、愛宕神社、山皇様、御所稻荷様、熊野神社、加茂川の滝、弁天様天神様、お諏訪様、太神宮様、高尾山様、植木地蔵様、天皇様、

*植木地蔵尊

由緒:宝暦2年、六部市之進という者が、霊夢によって奈良「猿沢の池」のほとりより掘り出した、立像木身の地蔵尊のお告げにより、江戸神田に住む、旗本、水野小十郎の領地である、長岡村が有縁の地であるというので、仮堂を建て、安置したところ、参拝者が日増しに群集した。

その後、村の有志相談の上、間口4間、奥行5間の、二重御料付棒総丸柱の大堂守を建立。落成式は、安永2年4月大吉日に盛大に行われた。

天下泰平、国家安全、五穀豊穰、子孫長久、諸宿厄除、祭祈祷の道場として、霊験あらたかであったと伝えられている。

この地蔵尊は、植木を植えて信願すると、諸願成就するとの噂が広まり、植木地蔵と呼ばれた。